

# 講義内容の概要

## (シラバス)

2017 (H29) 年度

高知短期大学

2017年度開講科目一覧（社会科学科）

授 業 科 目		期 間	単 位 数	専 任 教 員	非 常 勤 講 師		ペ ー ジ		
					氏 名	所 属 等			
基礎教育科目	入門に関する科目	経済学Ⅰ	集中	2	大井 方子 教授			1	
		経済学Ⅱ	後期	2	細居 俊明 教授			2	
		情報処理Ⅰ	前期	2		増井 広二	ブレインソフトサービス	3	
	外国語科目	中国語Ⅰ（初級）	通年	2		池 純子	高知大学非常勤講師	4	
法学系科目		刑法総論Ⅰ	前期	2	田中 康代 講師			5	
		刑法総論Ⅱ	後期	2	田中 康代 講師			6	
		刑法各論Ⅰ	後期	2	田中 康代 講師			7	
		民法（総則・物権）Ⅰ	前期	2		林 良太	岩崎淳司法律事務所	8	
		民法（債権）Ⅰ	前期	2		緒方 賢一	高知大学人文学部	9	
		民法（家族）	後期	2		緒方 賢一	高知大学人文学部	10	
		経済法	前期	2	横川 和博	横川 和博	高知大学人文学部	11	
		社会保障法Ⅰ	集中	2	根岸 忠 准教授			12	
		法学特殊講義	後期	2	菊池 直人			13	
	経済・経営系科目		経済学史Ⅰ	後期	2		森 直人	高知大学人文学部	14
			財政学Ⅰ	前期	2		霜田 博史	高知大学教育学部	15
			経済政策論Ⅱ	後期	2	細居 俊明 教授			16
			地域経済論Ⅱ	後期	2		池谷 江理子	元高知短期大学特任教授	17
		労働経済論	後期	2	大井 方子 教授			18	
		経営学Ⅱ	集中	2		青木 宏之	香川大学経済学部	19	
		会計学Ⅱ	後期	2	梶原 太一 講師			20	
総合社会科学科目		政治学Ⅰ	集中	2	清水 直樹 准教授			21	
		行政学Ⅱ	後期	2	清水 直樹 准教授			22	
		社会学Ⅱ	前期	2		遠山 茂樹	高知大学人文学部	23	
		社会学Ⅱ	後期	2		池谷 江理子	元高知短期大学特任教授	24	
		ジェンダー論	前期	2		池谷 江理子	元高知短期大学特任教授	25	
		現代社会論	集中	2		池谷 江理子	元高知短期大学特任教授	26	
各系共通		高知学	集中	2	細居 俊明 教授			27	
		キャリアデザイン	前期	2		新谷 茂	キャリアコンサルタント・産業カウンセラー・交流分析士インストラクター	28	
		社会人基礎力養成講座	後期	2		新谷 茂	キャリアコンサルタント・産業カウンセラー・交流分析士インストラクター	29	
		社会科学演習	前期	2	専任教員複数名			30	
		社会科学演習	後期	2	専任教員複数名				

科目名	経済学	単位数	2	期別	集中
科目コード	A0030.5	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	『経済学講義』（飯田泰之著）を通して、ミクロ、マクロ、計量経済学を大まかに学ぶ。
授業の進め方	輪読形式（人数が少ないので教員も一緒に読んでいきます）
達成目標	経済学の基礎となるミクロ、マクロ、計量経済学とは何かをおおよそ理解する
授業計画 (講義の具体的 内容)	『経済学講義』の各章を2回程度で読む。章立ては次の通り。 1部ミクロ経済学 第1章 競争市場の需要と供給 第2章 独占と市場の失敗 第3章 新しいミクロ経済理論 2部 マクロ経済学 第4章 マクロ経済の数字 第5章 世界大恐慌から脱出するための経済学 第6章 失業とインフレーション 3部 計量経済学 第7章 統計的思考の基礎 第8章 回帰分析
履修上の注意	しっかり読んで、分からないところは分からないとはっきりさせ、わかるようになってください。
教科書	『経済学講義』（飯田泰之著）
参考書	
成績評価方法	平常点

科目名	経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	A0040	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7191 (研究室)
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	国民所得、GDP、経済成長といった基本用語を整理しながら、経済学の基本的な考え方を学びます。同時に日本社会が直面する具体的な問題について、みなさんとともに考えていきます。
授業の進め方	講義の形で進めるか、文献講読の形で進めるか、受講生と相談しながら決定します。
達成目標	(1)経済成長や国内総生産などの基礎的な用語について、その基本的な意味と性格を理解できるようになる。 (2)経済学の基本的な考え方を学ぶ (3)現代社会が直面する問題について、経済学の視点から関心をもって考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義形式の場合、概ね以下の順で話を進めます。  第1回 オリエンテーション - 危機の時代と経済学 第2回 経済成長と暮らし 国民の所得とは？ 第3回 経済成長と暮らし 成長の生む要因は？ 第4回 経済成長と暮らし 経済成長と豊かさ 第5回 経済成長と暮らし 豊かさの国際比較について 第6回 経済成長と暮らし 豊かになるとはどういうことか？ 第7回 中間復習 第8回 高齢化・人口減社会 何が問題か？ 第9回 高齢化・人口減社会 なぜ止められないか？ 第10回 高齢化・人口減社会への備え 公的年金は頼れるか？ 第11回 高齢化・人口減社会への備え 貯金は頼りになるか？ 第12回 不況の経済学 なぜ不況が続くのか？ 第13回 不況の経済学 なぜ失業が減らないのか？ 第14回 不況の経済学 対策として何ができるのか？ 第15回 総復習  文献講読の場合には、最初に受講生とともに文献を選び、それを皆で読み合わせる形で進めます。
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらか一方だけでも受講に支障はありません。
教科書	特に指定しません
参考書	授業の中で適宜指示します。
成績評価方法	講義形式の場合、途中で行う何回かの小テストを基本に、授業参加の姿勢を加味して成績評価をおこないます。文献講読の場合には、受講生に書いてもらう何回かのまとめを基本に、授業参加の姿勢を加味して成績評価をおこないます。両方の形式とも、受講生の状況に応じて期末試験も実施し、その場合は評価ウエイトは期末試験20%、その他80%をめどとします。

科目名	情報処理	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットの基礎とセキュリティを学習し、ワードで文章の作成、パワーポイントでプレゼンテーションの方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) ワードで基本的な文章を作成できるようになる (4) パワーポイントでプレゼンテーションが出来るようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第2回 Windowsの基礎 第3回 インターネットの基礎とセキュリティ 第4回 インターネットを使う 第5回 Wordの基本 第6回 拡張書式・スタイルの設定 第7回 表の作成 第8回 段落・タブ・箇条書き 第9回 画像の処理(画像処理ソフト) 第10回 画像・ワードアートの操作 第11回 差し込み印刷 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーション・テーマの変更 第15回 まとめ
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、提出物と講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	中国語 I (初級)	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0150	担当教員	池 純子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中国語は日本人にとって漢字という共通の文字を持つ親しみやすい言語ですが、発音という点では、かなり異なっています。この授業では繰り返し発音練習をして正確な発音を習得するようにします。また、会話練習を重点的に行い、簡単な文章を口頭練習し、聞き取れ、表現できるようにします。言葉の習得はその国を理解する上で大きな手助けとなりますし、中国語は今後様々な分野で必要となる言語です。授業の中では、中国事情についても触れる予定です。				
授業の進め方	演習形式 対話で会話練習 口頭練習を重視				
達成目標	(1) 中国語のローマ字による発音表記(ピンイン)を習得し、正しい発音ができるようになる。 (2) 基本単語を覚え、基本文法を学ぶ。 (3) 聞き取り練習によって、簡単な文が聞き取れ、簡単な会話ができるようになる。 (4) 辞書を使って単語の意味や、簡単な文が理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	授業は、新出語句→本文の音読→文法解説→ロールプレイ・暗唱→ドリルという順序で進める。1回目には「中国・中国語」に関するオリエンテーションを行う。 第1回 第1課 発音(1)オリエンテーション、声調、単母音、複母音 第2回 第2課 発音(2)子音 第3回 第3課 発音(3)鼻母音 第4回 第4課 発音(4)声調変化、r化 第5回 第5課 「どうぞよろしく」 挨拶、人称代名詞、 第6回 第6課 「お名前は」 姓名の言い方、呼びかけの言葉 第7回 第7課 「ご出身は」 指示代名詞、動詞述語文 第8回 第7課 第9回 第8課 「飲み物は」 疑問詞疑問文、助動詞「～したい」、「～が好きだ」 第10回 第8課 第11回 第9課 「おいくつ」 年齢の言い方、数詞、「～に～があります」 第12回 第9課 第13回 第10課 「和食はいかが」 経験の言い方、形容詞述語文 第14回 第10課 第15回 中間試験	第16回 復習 第17回 第11課「家庭訪問」 助動詞「～せねばならない」、主述述語文、比較 第18回 第11課 前置詞「～に、～のために」 第19回 第12課「買い物」 助動詞「～てもよい」、動詞の重ね型、方向補語、 第20回 第12課 連動文、お金の言い方 第21回 第13課「道案内」 「どうやって～する」、前置詞「～から、～まで」 第22回 第13課 助動詞「ねばならない」、「～は～にあります」、完了 第23回 第14課「中秋節」 年月日・曜日、「もうすぐ～する」、状態の変化 第24回 第14課 前置詞「～と」 第25回 第15課「食事の前は」 時刻の言い方、時間 量の言い方、禁止、副詞「なかなか」 第26回 第15課 第27回 第16課「手作り料理」 助動詞「～できる」、結果補語、不と没、方位詞 第28回 第16課 第29回 第17課「カニの季節」 助動詞「～できる」 、前置詞「～で・に」、副詞「また」 第30回 第17課 可能補語			
履修上の注意	休まずに受講すること。授業中は積極的に発音、口頭練習をすること。				
教科書	『日中いぶこみ交差点』相原茂、陳淑梅、飯田敦子著 朝日出版社 2017年				
参考書	中日辞典				
成績評価方法	前期15回目に中間試験、後期31回目に学年末試験を行う。前期中間試験(30%) 学年末試験(40%)、小テストや授業への参加姿勢(30%)等を併せて総合的に評価する				

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0331	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7190 (研究室)
	E-mail					yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については今年度開講予定の刑法総論 で勉強することになります。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確保するために小テストを行うことを予定しています。
達成目標	(1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 (5) 違法性阻却事由について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第2回 刑法の基本原則 第3回 刑罰の基礎的問題 第4回 罪刑法定主義 第5回 刑法の適用範囲 第6回 犯罪論の体系 第7回 行為と構成要件 第8回 因果関係(1) 第9回 因果関係(2) 第10回 不作為犯(1) 第11回 不作為犯(2) 第12回 違法性の意義と機能 第13回 可罰的違法性と違法性 第14回 違法性と違法阻却事由 第15回 正当行為 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 教科書を事前に読んで、予習してください。 平成28年度版の六法を必ず持参してください。 ノートをとってください。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年)
成績評価方法	期末試験(80%)、小テスト(10%)、出席を含む受講態度(10%)を総合して評価します。

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0332	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7190 (研究室)
	E-mail					yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	刑法第1編総則の後半部分(刑法総論の続き)について勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確保するために小テストを行います。
達成目標	(1) 違法性阻却事由について理解すること。 (2) 責任の概念について理解すること。 (3) 故意・過失について理解すること。 (4) 錯誤について理解すること (5) 共犯について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 正当防衛 第2回 緊急避難 第3回 自救行為と被害者の同意 第4回 責任論の基本問題 第5回 責任能力 第6回 原因において自由な行為 第7回 故意 第8回 錯誤論(1) 第9回 錯誤論(2) 第10回 過失 第11回 未遂 第12回 中止犯 第13回 不能犯 第14回 共犯(1) 第15回 共犯(2)
履修上の注意	2009年度以前の「刑法(4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を履修していることが望ましい。 平成27年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。



科目名	刑法各論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0333	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7190 (研究室)
	E-mail					yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 生命・身体に対する罪について理解すること (2) 身体の自由に対する罪について理解すること。 (3) 人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まり、色々な問題も指摘されています。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 刑法各論とは何か、刑法の基本原則 第2回 殺人の罪 第3回 傷害の罪(1) 第4回 傷害の罪(2) 第5回 過失傷害の罪 第6回 堕胎の罪 第7回 遺棄の罪 第8回 脅迫の罪 第9回 逮捕・監禁の罪 第10回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第11回 姦淫の罪 第12回 住居を侵す罪 第13回 秘密を侵す罪 第14回 名誉に対する罪 第15回 信用及び業務に対する罪  *皆さんの理解度などを助案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。 平成28年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	「新版口述刑法各論[補訂3版]」中山研一著、松宮孝明補訂成文堂(2014年)
参考書	特になし。必要な場合にはレジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(80%)、小テスト(10%)、出席を含む受講態度(10%)を総合して評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0351	担当教員	林 良太	所属	岩崎淳司法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の総則編を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。基本的には講師が説明することで、受講生には「民法総則の知識」というよりは「民法の考え方」を身に着けられることを目標とします。
達成目標	(1) 民法（総則編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み 第3回 権利の主体（ ）自然人 第4回 権利の主体（ ）法人 第5回 物・意思表示による権利変動 第6回 意思表示の瑕疵（1） 第7回 意思表示の瑕疵（2） 第8回 契約の不当性 第9回 無効と取消し 第10回 代理（1） 第11回 代理（2） 第12回 代理（3） 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(債権) を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	民法1 総則（有斐閣双書）有斐閣 2002年 *必須ではありません。レジユメを毎回配布します。なお、ポケット六法もあれば望ましい。
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0361	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学人文社会科学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法第三編債権のうち、第1章（総則）の部分を中心に講義をします。 民法(総則・物権) を履修済みであることを前提に講義をします。 民法（債権）（2学期開講予定）に続く内容ですが、先に民法（債権） を履修していてもかまいません。
授業の進め方	講義形式で行います。 法律学的な知識の確認を中心にしますが、判例等、社会的現実の中で「実際どうなのか」についても考えながら、総合的に法律を理解していきます。 講義期間中に小課題を課し、その上で期末試験を実施しますので、受講生は講義時間外で相当の自学自習をすることが必要です。期末試験は、受講者数によってはレポート試験にすることもあります。
達成目標	(1) 民法（債権総論部分）の基礎的内容について理解できるようになる。 (2) 社会的現実の中で法がどのように機能しているかについて理解できるようになる。 (3) 判例等を読んで法律的内容を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	講義は概ね以下のような順序で行います。 第1回 債権の目的 第2回 債権の効力 第3回 債務不履行責任 第4回 弁済 第5回 相殺 第6回 更改・免除・混同 第7回 債権譲渡 第8回 債権者代位権 第9回 債権者取消権 第10回 多数当事者の債権 第11回 連帯債務 第12回 保証債務 第13回 連帯保証 第14回 民法債権法の改正 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。
教科書	六法（なるべく最新版・種類は問わない）は毎回必ず持参して下さい（講義中に条文を参照し、書き写してもらいます）。
参考書	別冊ジュリスト224 民法判例百選（2015年 有斐閣）。
成績評価方法	期末試験（教場試験又はレポート試験60%）および小課題2回（20%）、講義への参加姿勢（20%）により総合評価します。

科目名	民法(家族)	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0371	担当教員	緒方 賢一	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法第四編「親族」及び第五編「相続」を講義の素材とし、重要な事項について講義を行います。法律学が講義の主たる内容ですが、法律の解釈学を学ぶということではなく、法的な世界について理解し、法的に考えることを中心的課題とします。
授業の進め方	社会科学を学ぶ上で必要な基礎的知識・教養としての法律知識と法的思考力を身につけ、現代の家族に関して、法と社会的現実の関係がどのようなものとなっているかを理解することを目標に講義をします。近代以後、現代に至るまでの家族関係の変遷について法的観点から検討し、家族制度、家族関係について自らの考えをまとめられるようになることを目指します。
達成目標	民法親族法の概要が理解できるようになる。 民法相続法の概要が理解できるようになる。 法と社会の現実的関係を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 家族と家族の法 第2回 法的にみた結婚 第3回 結婚生活と夫婦財産制度 第4回 事実婚と夫婦関係の多様化 第5回 離婚制度 第6回 離婚後の生活 第7回 親と子 第8回 親子関係の揺らぎと法 第9回 親の権限と子どもの権利 第10回 後見 第11回 少子高齢化社会と扶養 第12回 氏と戸籍と祖先祭祀 第13回 法定相続 第14回 遺言相続 第15回 まとめ
履修上の注意	特にありません。
教科書	六法は毎回持参してください。 講義中に条文を参照してもらいます。
参考書	利谷信義『家族の法 [第3版]』(2010年 有斐閣)
成績評価方法	授業参画、小レポート、期末レポートにより総合評価します。 出席に際して毎回コメントカードを出してもらいます(30%)。 ほかに、節目ごとに小レポートを提出してもらいます(20%)。 期末テストとして、レポートまたは教場試験を課します(50%)。

科目名	経済法	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0410	担当教員	横川 和博	所属	高知大学人文学部	
連絡先	電話					088-844-8257(研究室)
	E-mail					yokokawa@cc.kochi-u.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	日本の市場経済に関わる法律を概観し、国際的視野から評価・分析する。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 日本の市場経済に関わる法律の基本構造を理解する。 (2) それが経済社会の実態とどう関わるかについて考察できるようになる。 (3) 日本の経済法制を国際的視野から評価する能力を獲得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	次の順序で講義する。 第1回 経済法とはなにか 第2回 独占禁止法の意義 第3回～第4回 独占禁止法違反事件例・・・不当な取引制限 第5回 流通系列化と化粧品業界 第6回 医薬品業界と独占禁止法 第7回 自動車製造業と独占禁止法 第8回 コンビニ業界と独占禁止法 第9回～第10回 中小企業の競争力と中小企業法制 第11回 知的財産権法制 知的財産権とはなにか 第12回 著作権法の概要 第13回 特許法の概要 第14回～第15回 市場経済と独占禁止法・知的財産権法
履修上の注意	特になし
教科書	特に指定しない。
参考書	講義時に指示する。
成績評価方法	評価は最終筆記試験の成績による。 講義の内容が概ね理解できていれば60点。 講義時に指示した文献等に自分でアクセスし、講義内容を深めていれば70点。 講義で獲得した評価の視点で、講義内容を分析し、その結果を表現できれば80点以上となる。

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	集中	
科目コード	E0440	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7184 (研究室)
	E-mail					negishi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義、その歴史や社会保障が形成されてきた文化的な背景を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法 で扱うため、この授業では扱わない)。</p>
授業の進め方	<p>演習形式で進める。受講生が教科書の割り当てられた部分を毎回報告し、それを前提に議論を行う。</p>
達成目標	<p>(1)社会保障法の理念を学ぶ。  (2)社会保障を構成する各制度について理解を深める。  (3)受給者や要保障事由について理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 はじめに  第2回 社会保障とは何か  第3回 社会保障の歴史  第4回 労災補償(1)保険関係  第5回 労災補償(2)給付の種類  第6回 労災補償(3)労災民訴と労災保険の関係  第7回 医療保障(1)保険関係  第8回 医療保障(2)給付の種類  第9回 医療保障(3)医療提供者  第10回 医療保障(4)診療契約と保険診療  第11回 雇用保険(1)保険関係  第12回 雇用保険(2)給付の種類  第13回 年金保険(1)保険関係  第14回 年金保険(2)老齢給付  第15回 年金保険(3)障害給付、遺族給付</p>
履修上の注意	<p>社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、民法、労働法といった他の法分野と密接にかかわるため、これら科目をすでに履修していることを要する。かりに履修していない場合は、これら科目を理解していることを前提として授業を行う。  教科書は各自で生協やネットなどで注文し、第1回授業時に必ず持ってくることを要する。その際に報告の順番や担当箇所を決める。第1回授業時に教科書を持ってこない者は受講資格を有さない。</p>
教科書	<p>本沢巳代子、新田秀樹編著『トピック社会保障法 2017第11版』(不磨書房、平成29年)  金子征史ほか編『基礎から学ぶ労働法 第2版』(エイデル研究所、平成28年)</p>
参考書	<p>開講時に指示する。</p>
成績評価方法	<p>報告(100%)</p>

科目名	法学特殊講義	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0460.1	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	われわれの社会生活において必要不可欠な、そして実になじみの深い制度である保険について横断的に解説し、損害保険・生命保険の全体像・具体的特色について理解することを目的とする。
授業の進め方	教科書を用いながら、法律の趣旨を解説していく。
達成目標	(1) 保険制度の概要について理解できるようになる。 (2) 保険契約法の基礎理論を理解できるようになる。 (3) 損害保険契約、生命保険契約の内容について理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 保険制度 第3回 保険監督 第4回 保険契約法の基礎理論 第5回 保険経営上の原則と保険法特有のルール 第6回 モラル・ハザードと保険 第7回 保険代位 第8回 前半の確認 第9回 損害保険(1) 第10回 損害保険(2) 第11回 生命保険(1) 第12回 生命保険(2) 第13回 傷害疾病保険(1) 第14回 傷害疾病保険(2) 第15回 まとめ  なお、諸般の事情により授業内容の順序を変更する場合があります。
履修上の注意	民法、商法に関する知識がベースとなるので、民法(総則・物権)、民法(債権)、商法(総則・商行為)を履修済みであることが望ましい。 講義形式ではあるが、少人数となることが予測されるので、積極的な参加と発言を期待する。
教科書	『保険法 第三版増訂版』山下友信、竹濱修、洲崎博史、山本哲生有斐閣アルマ(2015年) 六法(今年度もので保険法が収録されていれば出版社は問わない)
参考書	
成績評価方法	講義内容に関するレポート、並びに、受講態度による。 【評価比率】レポート内容: 60% 受講態度: 40%  第13回以降の講義で提示するテーマでレポートの提出を求める。第15回講義終了後1週間以内に提出。(1200字以上) レポートの提出が無い者の成績は不可とする。

科目名	経済学史 I	単位数	2	期別	後期
科目コード	F492.5	担当教員	森 直人	所属	高知大学 人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この授業の目的は、歴史上のいくつかの「経済思想」の内容に触れ、そこから現代の経済を考える上で意味のある見方・考え方を学ぶことにあります。 「経済」とは何か。それをどう考えればよいか。現代でも、その答えは一つにまとまっているとは言えません。そして歴史をさかのぼると、経済についての様々な考え方(=経済思想)に出会うことができます。その中には、現在の主流の経済学の元になった考え方もありますし、また現代の経済学とは全く異なる考え方もあります。現代の経済学の元となった考え方や、現代の経済学とは違う視点を学んでおくことは、現代の経済について考えるために、重要な意味があるのではないのでしょうか。こうした発想から、この授業では、特に「経済学」の授業では学ぶことのない過去の経済思想を学んでいきます。				
授業の進め方	この授業では、過去およそ300年間にヨーロッパに現れた経済思想の中から、何人かの重要な思想家を取り上げます。そして、彼らから経済についてのどんな見方・捉え方を学ぶことが出来るか、解説します。授業は講義形式で行われますが、解説は重要なポイントに絞って行い、その他の点については配布資料の予習・復習で学んでもらう予定です。授業中には質問や対話の時間を取り、また質問票・コメントシートへの記入も行ってもらいます。				
達成目標	(1) 経済について様々な捉え方があることを理解できるようになる (2) 現代の主流の経済学の元となったいくつかの考え方を理解できるようになる (3) 現代の経済学とは違ったいくつかの視点や考え方を理解できるようになる (4) これらの考え方を活用して、現代の経済について独自に考察できるようになる				
授業計画 (講義の具体的内容)	この授業では、(最初の2回を除き)経済学の歴史に名を残す思想家たちを中心に授業を進めます。各々の思想家について事前に資料を配布して、その思想家について予習してもらった上で、授業では、経済についてのその思想家の考え方の特徴を解説します。また、その考え方から何が見えるか、その考え方にどのような意味があるかということについて、質問や対話の時間を取り、また簡単なテーマでワークシートに意見を記入してもらいます。 より詳しい講義計画は以下の通りです。ただし、今回は少人数の授業となることが予想されますので、取り上げる思想家や、授業の進め方などについては、参加者と相談しながら適宜ニーズに合わせて調整して行きたいと思えます。 第1回 はじめに：授業の目的、内容、進め方、評価基準などの説明 第2回 「経済」とは？：経済学が考える経済のあり方を歴史から見てみる① 第3回 「経済」とは？：経済学が考える経済のあり方を歴史から見てみる② 第4回 経済学成立前夜：D. ヒュームの「人間の学」と経済思想① 第5回 経済学成立前夜：D. ヒュームの「人間の学」と経済思想② 第6回 経済学成立前夜：D. ヒュームの「人間の学」と経済思想③ 第7回 ここまでのまとめと小テスト 第8回 小テストの返却と解説 第9回 「経済学の誕生」：A. スミスの『道徳感情論』と『国富論』① 第10回 「経済学の誕生」：A. スミスの『道徳感情論』と『国富論』② 第11回 「経済学の誕生」：A. スミスの『道徳感情論』と『国富論』③ 第12回 その後の経済学①：主流派の経済学 第13回 その後の経済学②：貨幣と需要の経済学 第14回 その後の経済学③：社会の公平と人間の可能性 第15回 全体のまとめ 第16回 期末テスト				
履修上の注意					
教科書	この授業は、以下の文献の内容に基づいて行われますが、関連資料と授業のレジュメを配布しますので、教科書の購入は必ずしも必要ありません。関心のある人のみ購入して下さい。大田一廣・鈴木信雄・高哲男・八木紀一郎編(2006年)『新版 経済思想史：社会認識の諸類型』、名古屋大学出版会。また、他の参考資料として、以下の文献も授業の中で折々利用する予定です。こちらも購入の必要はありません。ロバート・L・ハイルブローナー(2001)『入門経済思想史：世俗の思想家たち』、ちくま学芸文庫。				
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介します。				
成績評価方法	この授業では、毎回のワークシート、小テストと期末テストにより、質的評価・絶対評価にて成績評価を行います。得点の配分は以下の通り。 ワークシート：15% 小テスト：15% 期末テスト：70% テストの出題意図や採点基準については、小テストの返却時に説明します。また優れた答案の例を配布して、論理的な文章の組み立て方についても若干の説明を行う予定です。				



科目名	財政学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0499	担当教員	霜田 博史	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>地方分権改革は、1990年代以降現在に至るまで、日本の大きな政策課題となっている。地方分権改革が地域の自立と維持可能な発展につながるのかということが重要なポイントとなるが、そのためには地方自治体の財政が安定的に運営されることが必要不可欠である。</p> <p>本講義では、現在の日本の地方財政のあり方を概観しながら、今後の地方財政の改革課題とその方向性について考えてみたい。</p>
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	<p>(1) 現代日本の地方財政に関する基礎知識を習得する。</p> <p>(2) 地方財政の現状と改革課題について理解できるようになる。</p> <p>(3) 地方財政改革の方向性についての問題意識を持つことができるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の仕組み</p> <p>第3回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の理論</p> <p>第4回 現代社会における地方財政の役割 現代経済と財政</p> <p>第5回 地方自治体の予算制度</p> <p>第6回 地方経費</p> <p>第7回 地方経費</p> <p>第8回 地方税と課税自主権</p> <p>第9回 地方税と課税自主権</p> <p>第10回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第11回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第12回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第13回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第14回 地方財政改革の方向性</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	内容の順序については、事情により変更することもある。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	必要なものについて、授業中にそのつど推薦する。
成績評価方法	期末試験(100%)により評価する。

科目名	経済政策論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0505.1	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7191 (研究室)
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	現代経済の現状を抑えながら、どのような経済政策が必要とされているのか、入門的な文献を読みながら学習していきます。
授業の進め方	受講生の意見も聞きながら、関連する文献を選び、読み合わせる形で授業を進めます。授業の途中で感想や意見をまとめてもらいながら進めます。
達成目標	(1) 現代経済の抱える問題について認識を深める (2) 主な経済政策について、その性格や意義と限界について認識を深める
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回オリエンテーション 第2～6回 文献学習 第7回中間まとめ 第8～14回 文献学習 第15回まとめ  取り上げる文献の候補は以下のとおり。 野口悠紀雄『日本経済入門』(講談社現代新書,2017) 吉川洋『人口と日本経済 - 長寿、イノベーション、経済成長』(中公新書,2016) 滝田洋一『世界経済 まさかの時代』(日経プレミアシリーズ,2016) など
履修上の注意	出席することが大事になりますが、欠席が重なる場合には文献の内容要約や感想を求めることになります。
教科書	
参考書	
成績評価方法	授業の途中で何回か行う受講生によるまとめを基本に、参加姿勢を加味して評価します。

科目名	地域経済論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0506	担当教員	池谷 江理子	所属	元高知短期大学特任教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	経済活動には空間的広がりがある。グローバル化と少子高齢化の進展する今日、国民経済の枠組みばかりでなく、地域単位の経済活動への関心が高まっている。講義では経済理論に基づく地域開発の歴史を踏まえた上、各地における地域経済の実情と活性化に向けた取り組み事例を検討しながら、今後の地域経済のあり方を考えていきたい。
授業の進め方	講義形式で進めますが、積極的に発問を行い双方向の授業を目指します。テーマにより、グループ討論を行い、各自が決めた小テーマを発表する場を設ける計画です。
達成目標	(1)地域経済と国民経済の差異、特徴を理解する。 (2)経済理論と地域開発計画の関連及び具体的応用事例を理解する。 (3)現代における地域経済の課題・問題点を把握できる。 (4)地域経済の実態と活性化に向けた取り組み事例を把握する。 (5)地域における経済活性化について主体的に考える基礎力を培う。 (6)地域経済を学ぶことにより、受講生の職業人としての自立を支援することを目的とする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 経済理論と地域開発計画 第3回 ケインズ理論と乗数効果 第4回 テネシー渓谷開発計画と第二次世界大戦 第5回 成長の極理論 第6回 拠点開発構想と実態 第7回 公害・環境問題の深刻化と「成長の限界」 第8回 現代における地域経済の課題 第9回 グローバル化・少子高齢化と地域経済 第10回 大企業と地域経済：デトロイト、水俣 第11回 地域・地場産業と地域経済：静岡、高知他 第12回 環境問題と地域の取り組み：梶原、四日市他 第13回 地域資源を生かした多面的取組事例 - その1 - 第14回 地域資源を生かした多面的取組事例 - その2 - 第15回 総括
履修上の注意	日頃から、身近な地域の出来事やニュースについて関心を持つよう、心掛けてください。
教科書	講義資料を配布します。
参考書	講義の中で随時紹介します。『環境と開発』宮本憲一著、岩波書店、1992年、『6次産業化と中山間地域』関満博著、新評論、2014年等。
成績評価方法	期末レポート及び試験(70%)、講義への参加姿勢(30%)より総合的に評価します。「講義への参加姿勢」の中には、小レポートの提出、討論やワークショップへの参画、発表への取り組み等を含みます。

科目名	労働経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0550	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7189 (研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	働くということについて、経済学的に考える力を養う。
授業の進め方	教科書の章末問題演習を中心に進める。
達成目標	(1) 労働を、経済学的にはどう考えればいいのかを、理解できるようになる。 (2) 賃金の違いの原因を考えることができるようになる。 (3) 効率化と格差是正について、考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第01回 はじめに 第02回 生産要素市場 1 : 労働需要と市場均衡 (教科書第 1 8 章) 第03回 生産要素市場 2 : 他の生産要素 (同上) 第04回 生産要素市場 3 : 演習 1 (同上) 第05回 生産要素市場 4 : 演習 2 (同上) 第06回 生産要素市場 5 : 演習 3 (同上) 第07回 勤労所得と差別 1 : 近郊賃金の決定要因 (教科書第 1 9 章) 第08回 勤労所得と差別 2 : 差別の経済学 (同上) 第09回 勤労所得と差別 3 : 演習 1 (同上) 第10回 勤労所得と差別 4 : 演習 2 (同上) 第11回 所得の分配 1 : 不平等の尺度 (教科書第 2 0 章) 第12回 所得の分配 2 : 貧困を減らすための政策 (同上) 第13回 所得の分配 3 : 演習 1 (同上) 第14回 所得の分配 4 : 演習 2 (同上) 第15回 おわりに
履修上の注意	「経済学」を履修済みであれば望ましい。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年)第18~20章
参考書	
成績評価方法	授業中の問題演習の取り組み方を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。ただし、学生の状況によって、評価方法を変えることがある。

科目名	経営学	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0680	担当教員	青木 宏之	所属	香川大学経済学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では日本企業の経営について学びます。講義は大きく4つのパートにわかれています。第一部では、日本企業の強みと言われるリーン生産方式について学んだ後に、様々な産業の製品開発活動について紹介します。第二部では、日本企業の組織原理を動員型管理ととらえた上で、その組織原理の源流をたどります。第三部では、日本の雇用システムについて解説した後に、働き方改革について議論します。第四部では、キャリア管理についての代表的な議論を紹介したうえで、人が成長する職場と政策について考察を深めます。
授業の進め方	教員からの解説が基本であるが、授業時間内に与えられたテーマでグループディスカッションをすることがある。
達成目標	(1) 日本企業の生産管理と製品開発の特徴について説明できる。 (2) 日本企業の組織原理とその起源について説明できる。 (3) 日本の雇用システムを理解し、近年の働き方改革について意見を述べることができる。 (4) 日本企業のキャリア管理の特徴を説明することができる。
授業計画 (講義の具体的内容)	第一部 生産管理・製品開発 1. リーン生産方式 2. 製品開発の理論 3. 製品開発の事例分析(1) 4. 製品開発の事例分析(2) 第二部 日本企業の組織原理 5. 動員型管理 6. 日本的経営の源流(1): 明治期 7. 日本的経営の源流(2): 大正・昭和期 第三部 雇用関係 8. 労使関係 9. 日本企業の採用 10. 非正規労働者のキャリア 11. 日本の雇用システムと働き方改革 第四部 キャリア管理 12. 経験学習論 13. 知的熟練論 14. 管理職・経営幹部人材の育成 15. 人材を育てる職場と政策
履修上の注意	授業中に指定された自学自習の課題に取り組むこと。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指定する。
成績評価方法	小テスト(20%)と期末レポート(80%)

科目名	会計学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0710	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7187
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>現代における様々な会計基準の内容について解説します。会計の世界では、1990年代後半から現在にかけて、新しい会計基準が次々と設定されてきています。そのような大きな変化の背景には、「損益計算のための会計」から「実態開示のための会計」へ、という大きな思想の転換があります。たとえば、資産の評価に「時価」が用いられるということも、実態開示を優先する考え方から導き出されたものです。</p> <p>この授業では、1990年代以降に新しく登場してきた個々の会計基準の内容を解説し、現代社会において会計が担っている役割について考えていきます。</p>
授業の進め方	<p>1990年代から公表されてきた新しい会計基準を1つずつ取り上げて、それぞれが、 どういう出来事を、 どういう実態としてみなして、 財務諸表（連結財務諸表）にどう表現しようとするのか、の3点について解説します。</p> <p>また、適宜、有価証券報告書の内容についても解説します。</p>
達成目標	<p>(1) 個々の会計基準について、その目的と意味を理解できるようになること。</p> <p>(2) 「経済的実態」という言葉の意味を説明できるようになること。</p> <p>(3) 次々と設定されている新しい会計基準は、その利用者として地球規模で活動する巨大な多国籍企業が想定されています。これらの会計基準の考え方を理解しようと努めることで、大企業や多国籍企業の経営全般の知識についても自然と習得することができるでしょう。</p> <p>(4) この授業の内容を理解しようとすることをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回 財務報告と「概念フレームワーク」 第3回 事業活動と金融活動の区分 第4回 棚卸資産の会計基準 第5回 固定資産の減損の会計基準 第6回 リース取引の会計基準 第7回 研究開発活動の会計基準 第8回 金融商品の会計基準 第9回 金融派生商品の会計基準 第10回 資産除去債務の会計基準 第11回 退職給付債務の会計基準 第12回 自己株式の会計基準 第13回 税効果の会計基準 第14回 企業結合の会計基準 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。各会計基準は文書として公表されているので、それらが掲載された法規集を手許に置いておくと、学習の際に有益です。また、電卓などの計算機を持参すると便利です。</p>
教科書	『財務報告論』矢部孝太郎編、中央経済社（2017年）。
参考書	『新版会計法規集』中央経済社編（順次改定されているので、その時点で手に入る最新版が望ましい）。
成績評価方法	毎回の授業内容の要約課題（20％）、期末試験（80％）。

科目名	政治学	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0781	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、政治学の論文の講読を通じて、政治学の基礎を習得してもらいます。
授業の進め方	受講者に『年報政治学』、『選挙研究』、『年報行政研究』の中から関心のある論文を選択、レジュメにまとめて参加者全員に配布し、報告してもらいます。上の雑誌はすべてウェブ(J-STAGE)でダウンロードできます。検索・ダウンロードの方法については、第1、2、3回の授業で説明します。また、報告の回数は、3人ならば大体4回くらいの報告になります。
達成目標	(1) 政治学の基礎を習得する。 (2) 政治学への関心を涵養する。 (3) 論文の検索方法を習得する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1、2、3回(12月18日) オリエンテーション:論文の検索・ダウンロード 第4、5、6回(12月19日) 報告(1、2、3) 第7、8、9回(12月20日) 報告(4、5、6) 第10、11、12回(12月21日) 報告(7、8、9) 第13、14回、15回(12月22日) 報告(10、11、12)  注意:第1、2、3回はA204(情報処理室)で行いますので、そちらにお越しください。第4回以降はA401で行います。
履修上の注意	特にありません。
教科書	『年報政治学』、『選挙研究』、『年報行政研究』に掲載されている論文。
参考書	『年報政治学』、『選挙研究』、『年報行政研究』に掲載されている論文。
成績評価方法	レジュメと報告の内容(70%)と質疑・討論への参加(30%)によって評価します。

科目名	行政学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0862	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7188
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	この講義では、日本の官僚制を検討します。
授業の進め方	第2回から第15回まで、授業計画に示した箇所を熟読し、A4用紙にまとめて提出してください。そのペーパーをもとに議論を中心に進めます。詳細はオリエンテーションで説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って現在の行政を理解し、説明できるようになる。 (2) 日本の官僚制を理解する。 (3) 官僚制の理論や思想を理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 『現代日本の官僚制』1 第3回 『現代日本の官僚制』2 第4回 『現代日本の官僚制』3 第5回 『現代日本の官僚制』4 第6回 『現代日本の官僚制』5 第7回 『現代日本の官僚制』6前半 第8回 『現代日本の官僚制』6後半 第9回 『現代日本の官僚制』7前半 第10回 『現代日本の官僚制』7後半 第11回 『現代日本の官僚制』8前半 第12回 『現代日本の官僚制』8後半 第13回 『現代日本の官僚制』9前半 第14回 『現代日本の官僚制』9後半 第15回 『現代日本の官僚制』10
履修上の注意	行政学 と行政学 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。教科書は、第1回から使用しますので、必ず持参してください。第1回目で持参していない場合は、受講を認めません。受講人数が不明のため、生協の教科書として扱うことは難しいので生協の教科書コーナーでは購入できません。生協、書店、インターネットなどで授業開始までに各自注文し購入してください。
教科書	曽我謙悟(2016)『現代日本の官僚制』東京大学出版会。
参考書	特にありません。
成績評価方法	提出したペーパー(計14回)で評価します(100%)。5回提出がない場合、成績評価はしません。



科目名	社会学	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0880	担当教員	遠山 茂樹	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマは「コミュニケーションの社会学」。</p> <p>社会学は現代の社会現象の実態やその原因を解明しようとする学問である。このような社会の実態や因果関係などを、人と人との相互作用やコミュニケーションという人間行為から捉えようとするのが本授業である。</p>
授業の進め方	<p>授業は講義形式で行い、教科書に沿って進める。必要に応じ、こちらで準備したレジメを配布する。</p> <p>授業中にも簡単な課題を与えることもある。</p> <p>期末試験を実施する。</p>
達成目標	<p>(1) コミュニケーションについて理解する</p> <p>(2) コミュニケーションを通して、社会現象の様々な局面について社会的視点から理解できるようになる。</p> <p>(3) 日常生活におけるコミュニケーションに対しても自覚的になり、主体的に社会を理解する姿勢を身につける。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>本講義では、社会現象をコミュニケーションという相互作用からの視点で捉えようとする社会学について取り上げる。</p> <p>具体的にはコミュニケーションの社会学とは何かを説明し、その後コミュニケーションの社会学でなにかができるかについて、「対話として」「遊戯として」「非対称の」「フラット化する」コミュニケーションという視点から考察する。</p> <p>授業計画としては以下の内容を予定している。</p> <p>第01回 コミュニケーションと社会学  第02回 対話と遊戯としてのコミュニケーション  第03回 パラドックスと接続としてのコミュニケーション  第04回 単独性とコミュニケーション  第05回 対話というコミュニケーション  第06回 権力というコミュニケーション  第07回 メディアというコミュニケーション  第08回 遊びと笑いというコミュニケーション  第09回 恋愛というコミュニケーション  第10回 友愛というコミュニケーション  第11回 家族というコミュニケーション  第12回 教育というコミュニケーション  第13回 ケアというコミュニケーション  第14回 フラット化するコミュニケーション  第15回 暴力と悪というコミュニケーション  第16回 期末試験</p>
履修上の注意	<p>社会学 を履修していなくてもよい。</p>
教科書	<p>『コミュニケーションの社会学』長谷正人・奥村隆編著、有斐閣アルマ(2009)</p>
参考書	<p>『社会学小辞典 新版増補版』濱嶋朗ほか編、有斐閣(2005年)  『社会学がわかる事典』森下伸也著、日本実業出版社(2000年)  その他の参考書については講義のなかで紹介する。</p>
成績評価方法	<p>2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。</p> <p>成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。</p>

科目名	社会学	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0880.1	担当教員	池谷 江理子	所属	元高知短期大学特任教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会学は人間の社会生活の成り立ちや仕組み、役割等について研究する学問です。授業では、特に、現代社会における学問・教育の役割、若者の成長とそれを取り巻く現代的課題などに焦点を当て、社会学の考え方に触れていきたいと考えています。
授業の進め方	教員が説明を加えながら、社会学の文献や研究成果を読み合わせる形で進めます。受講生が感想やコメントを自由に出し合い、授業参加者が学びあえる授業にしていきたいと考えています。
達成目標	(1) 現代社会の抱えている問題について認識を深める。 (2) 重要な社会問題について、その実態や特質、背景と課題について認識を深める。 (3) 現代社会の諸問題に気づき、問題のありかや解決方法を探る力を養う。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下のように考えていますが、学生の希望や興味・関心、理解状況等により、テーマ・進度等を調整します。 第1回 オリエンテーション、授業の進め方 第2回 学問、教育と社会学 第3回 教育と格差 第4回 教育と職業能力形成 第5回 現代日本の教育と課題 討論とまとめ 第6回 現代の若者と社会学 第7回 若者の自立と課題(海外の場合) 第8回 現代日本の若者 第9回 若者のキャリア形成 第10回 若者の自立をめぐる 討論とまとめ 第11回 現代の家族と社会学 第12回 家族をめぐる諸問題 第13回 家族形成と若者 討論とまとめ 第14回 課題の発表 第15回 全体のまとめ
履修上の注意	社会学 を履修していなくてもよい。ノート・メモを取りながら受講するようにして下さい。
教科書	レジュメのプリントを用意します。
参考書	授業中に適宜、紹介します。『軋む社会—教育・仕事・若者の現在』本田由紀、河出文庫(2011)、『若者はなぜ大人になれないのか』G・ジョーンズ、C・ウォーレス、新評論(1996)原著1992)、『家族というリスク』山田昌弘、勁草書房(2001)、『職業としての学問』マックス・ウェーバー、岩波文庫(1981、原著1919)他。
成績評価方法	学年末レポートまたは試験(70%)と、読み合わせ参画・発言・課題の発表と課題提出(30%)等から総合的に評価します。

科目名	ジェンダー論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0890	担当教員	池谷 江理子	所属	元高知短期大学特任教授
連絡先	電話				
	E-mail ikeya@cc.u-kochi.ac.jp				
授業概要 (テーマ等)	「ジェンダー」とは何か、なぜ、今、「男女共同参画」が謳われるのか、学びます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。本講義は現代社会において欠落しがちな重要な視角を学ぶことを通し、受講者の社会的及び職業的自立を支援することを目指します。				
授業の進め方	プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。適宜、小テーマで意見交換やグループ討議を行いました、調べた結果を発表する場を設けます。毎回、コメント用紙を配布しますので、意見や疑問等に利用してください。受講生の希望や人数により一部にゼミ的な形式を取り入れる可能性もあります。				
達成目標	(1) ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2) 人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3) 就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4) 文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5) セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知り、その予防や防止につなげることができるようになる。 (6) ジェンダーの視点を身につけ、社会人、職業人としての基礎的教養とする。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー (1) 西洋の場合 第3回 (2) 日本の場合 1) 中世以前 第4回 (2) 日本の場合 2) 近世以降 第5回 仕事、就業とジェンダー (1) 世界と比較した日本の特徴 第6回 (2) 男女賃金格差の実態と背景 第7回 (3) 間接差別とガラスの天井 第8回 社会保障とジェンダー (1) 制度設計のジェンダー・バイアス 第9回 (2) 年金とジェンダー 第10回 育児・介護とジェンダー (1) 国際比較 第11回 (2) 保育・育児休業と子育て支援 第12回 教育とジェンダー 第13回 メディア・文化とジェンダー 第14回 セクシャルハラスメント、ドメスティックバイオレンスとジェンダー 第15回 今後の社会とジェンダー(授業のまとめ・討論) 概ね以上のように計画していますが、学生の興味関心、社会情勢等により多少の変更がなされる可能性があります。				
履修上の注意	日常生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を發表し、自由に議論をたたかわせてほしいと希望します。新聞、雑誌、ウェブ上でも再々議論が行われますのでチェックするようにして下さい。				
教科書	授業時にはレジュメを用意します。適宜、プロジェクターにより画像や写真等を映し理解を深めるようにします。『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、ミネルヴァ書房(2013年)(必携ではありませんが、参照するよう勧めます)				
参考書	『仕事と家族』筒井淳也著、中央公論新社(2015年)、『男性の育児休業』佐藤博樹・武石恵美子著、中央公論新社(2004年)、『働く女子の運命』濱口桂一郎著、文芸春秋(2015年)、『戦争がつくる女性像』若桑みどり著、筑摩書房(2000年)、『岩波女性学事典』井上輝子他編著、岩波書店(2002年)、『男女共同参画統計データブック2015』男女共同参画統計研究会編、ぎょうせい(2015年)、その他、授業時に適宜紹介します。				
成績評価方法	期末の試験及びレポート(併せて70%)を主としますが、提出物、討論・ワークショップへの参画状況等を加味(30%)し、総合的に評価します。				

科目名	現代社会論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G1000	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学前特任教授
連絡先	電話				
	E-mail eriko.ikeya@gmail.com				

授業概要 (テーマ等)	<p>様々な専門分野を勉強するための準備として、現代に生きる私たちが抱える重要な社会問題をいくつか取り上げ、掘り下げて考えてみたいと思います。</p> <p>温暖化や生物多様性の減少などの地球環境問題、貧困や格差拡大・固定化が憂慮される問題、防災・減災の課題等を取り上げたいと考えています。実態と背景を解明していきますので、皆で解決方法や対応策を一緒に考えていきましょう。</p>
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業は、レジュメと資料により講義形式で行いますが、状況により討論等を取り入れ双方向の授業を目指します。</li> <li>2.適宜、映像資料を使用します。</li> <li>3.授業内でコメント等を作成します。</li> <li>4.質疑を歓迎します。</li> </ol>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会問題が自分の日常生活と密接に関連することを理解できるようになる。</li> <li>2.社会問題の要因・背景を説明できる基礎力を養成する。</li> <li>3.世界と日本の事例から、改善に向けての示唆、ヒントを得る力を養う。</li> <li>4.今後の日本社会のあり方について自分なりの意見をまとめることができるようになる。</li> <li>5.講義を通じて、社会参加の重要性を認識し、社会の一員としての自覚を持つことができるようになる。</li> </ol>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>ほぼ以下のように考えていますが、受講生の希望、社会情勢等により多少変更される場合があります。</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方と留意点  第2回 地球環境問題へ対応：脱炭素化社会  第2回 地球温暖化の実態と原因  第4回 温暖化対策と脱炭素化社会  第5回 オゾン層破壊の原因と対策  第6回 生態系の破壊と生物多様性  第7回 貧困・格差と社会  第8回 貧困と社会福祉  第9回 日本の貧困・格差と社会保障  第10回 子どもの貧困：貧困の連鎖を断ち切るには？  第11回 災害リスクと向き合う社会  第12回 自然環境と災害リスク  第13回 過去の災害から学ぶ：東日本大震災他  第14回 防災・減災への取り組みと課題  第15回 全体の総括</p>
履修上の注意	折に触れて新聞、ニュース、雑誌、web等を通じて社会問題に関心を寄せることを期待します。
教科書	レジュメ、資料を配布し、テーマにより映像・画像資料を視聴します。
参考書	『環境科学入門』富田豊編、学術図書出版社（2006年）、『異常気象と地球温暖化』鬼頭昭雄著、岩波書店（2015年）、『<生物多様性>入門』鷲谷いずみ著、岩波書店（2010年）、『ルポ 生活保護』本田良一著、岩波書店（2010年）、『子どもの貧困』阿部彩著、岩波書店（2014年）、その他、適宜、授業で紹介します。
成績評価方法	テストまたはレポート(70%)、講義への参加姿勢（課題提出・討論参加・コメント作成）など(30%)を含め総合的に評価します。

科目名	高知学	単位数	2	期別	集中	
科目コード	H0900	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7191 (研究室)
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	地方が生き生きとした持続可能な社会として存立するためには、第1次産業の再生が不可欠です。この授業では高知の中山間地域で始まっている、第1次産業の新たな取り組みについて現場に触れながら考えていきます。
授業の進め方	現場に行き、フィールドワークを取り入れながら、また中山間地域再生の課題に取り組む人たちの話を伺いながら、その可能性を探ります。参加して、感じて、考えることが重要です。最後にはそれぞれ何を
達成目標	(1) 中山間地域の抱える課題を現場に即して理解する (2) 中山間地域の再生につながる可能性と条件を考える
授業計画 (講義の具体的 内容)	日程など詳細は別途連絡します。
履修上の注意	現地演習に関する昼食代は各自の負担となります(詳細後日)。学外フィールドワークが行われますので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入下さい。社会性のある服装を着用し筆記具・メモ等持参下さい。現地の方々の協力と支援で成立する授業です。感謝の気持ちを大切に行動し成果に結び付けるよう期待します。
教科書	レジュメ・資料を配布します。
参考書	
成績評価方法	講義・フィールドワークへの参加、取り組み姿勢(60%)、レポートと発表(40%)という目安で総合的に評価します。

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1010	担当教員	新谷 茂	所属	キャリアコンサルタント・経理カウンセラー・文芸新士インストラクター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	自分らしい生き方、働くことの意味を考え、自己への気づきを通して主体的なキャリア形成を図るよう学びを深めてまいります。また、生涯に2～3回の転職は珍しくなくなってきました。就活や社会に出てから、適切な職業に就きキャリアを築くための自己理解・職業選択や履歴書の書き方、キャリアデザイン、転職の戦略など実践的な指導をしてまいります。
授業の進め方	講義と演習形式の両方で進めます。自らキャリアを選択し形成するために、個々人のキャリアを取り巻く課題の解決に向けて必要な知識・情報を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 働くことの意味や価値を理解する。 (2) 職業や労働環境について理解する。 (3) 自己理解を深めキャリアデザインのための機会を提供し、就職力を高め主体的にキャリアを形成する力を育成する。 (4) 転職を乗り越えるためのキャリア戦略を理解する
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション、これからの働き方 第2回 職業の選択 第3回 自己理解 性格検査(エゴグラム) 第4回 自己理解 職業興味(職業レディネス) 第5回 履歴書の書き方、作成・指導 第6回 履歴書の書き方、作成・指導 第7回 面接対策・模擬面接・自己PR 第8回 キャリア理論 第9回 キャリア理論 第10回 自己理解を深める 第11回 キャリアデザイン・ワーク 第12回 転職を乗り越えるためのキャリア戦略 第13回 労働者を取り巻く職場環境、ストレス対処 第14回 コミュニケーション、対人関係力開発 第15回 この講座で学んだこと、キャリアについて考えたこと ディスカッション
履修上の注意	就職希望者およびキャリアデザイン、生涯キャリア開発について興味のある方を対象としています。
教科書	そのつどプリント等を配布する。性格検査・職業興味検査などのために千円程度負担要。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	レポート(30%)・発表(30%)・受講姿勢等(40%)を考慮しながら総合的に評価する。

科目名	社会人基礎力養成講座	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1011	担当教員	新谷 茂	所属	キャリアコンサルタント・健康カウンセラー・交流分析士インストラクター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	コミュニケーション心理学とも呼ばれている「交流分析」の理論を学び、社会人基礎力として必須の対人関係力・コミュニケーション力を育成します。 また、交流分析を学んで自己理解を深め、ストレス対処力・自己開発力を身につけます。
授業の進め方	テキスト「交流分析入門」を使い、講義やグループディスカッションを含めた授業の展開
達成目標	(1)交流分析の基本理論を理解する (2)エゴグラム、人生態度、人生脚本などを通して自己理解を深める (3)対人関係力、コミュニケーション力など基礎力の向上を図る
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 社会人基礎力と交流分析 第2回 自我状態-心の仕組みを理解する 第3回 エゴグラムと自己理解 第4回 対話分析とコミュニケーションパターン 第5回 心の栄養素-ストローク 第6回 ディスカウント 第7回 人生態度-あなたもOKわたしもOK 第8回 心理ゲーム 第9回 時間の構造化とワークライフバランス 第10回 人生脚本とは 第11回 無意識に身につけた禁止令・拮抗禁止令 第12回 転機を乗り越える-脚本分析と再決断 第13回 交流分析と対人関係力開発 第14回 私のエゴグラムと自己開発 第15回 まとめ 交流分析を学んで-ディスカッション
履修上の注意	この授業では、社会人基礎力養成のために「交流分析」を学んで、対人関係・自己理解・コミュニケーション等の必要な知識を講義します。
教科書	交流分析入門(チーム医療)
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート(30%)・発表(30%)・講義への参加姿勢等(40%)を総合的に評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	前期・後期
科目コード	H1020.1	担当教員	専任教員複数名	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は大学での学び、特に社会科学の学びにとって必要な読み、書き、話す能力を高めることを目的に開講する演習形式の授業です。 授業内容、受講申請方法については最初のゼミで示します。
授業の進め方	在学生全員の受講を想定し、複数のゼミに分かれ、それぞれ少人数の演習形式で進めます。 開講時間なども受講生にあわせて調整することもあります。
達成目標	
授業計画 (講義の具体的内容)	開講時に担当教員が説明します
履修上の注意	できるかぎり、すべての学生が受講することを推奨します。授業内容、受講申請方法については相談しながら進めます。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	演習への参加姿勢を基本に、後日説明します。